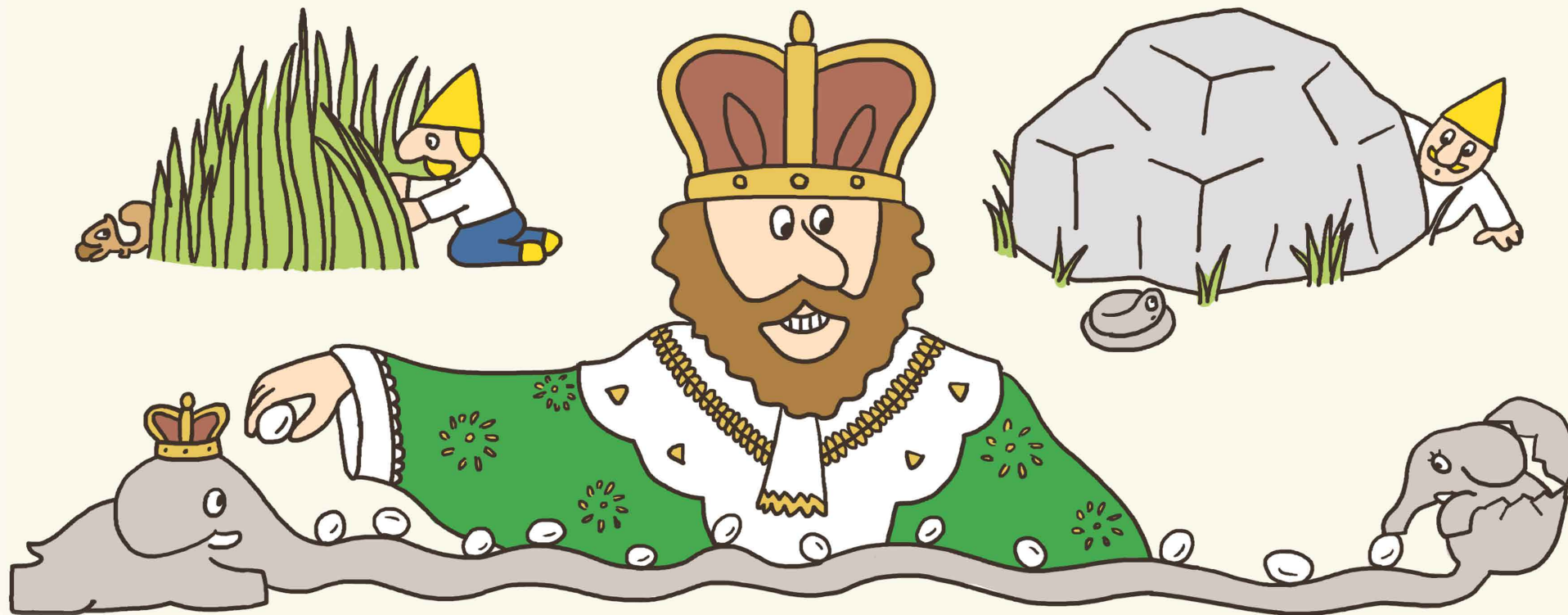


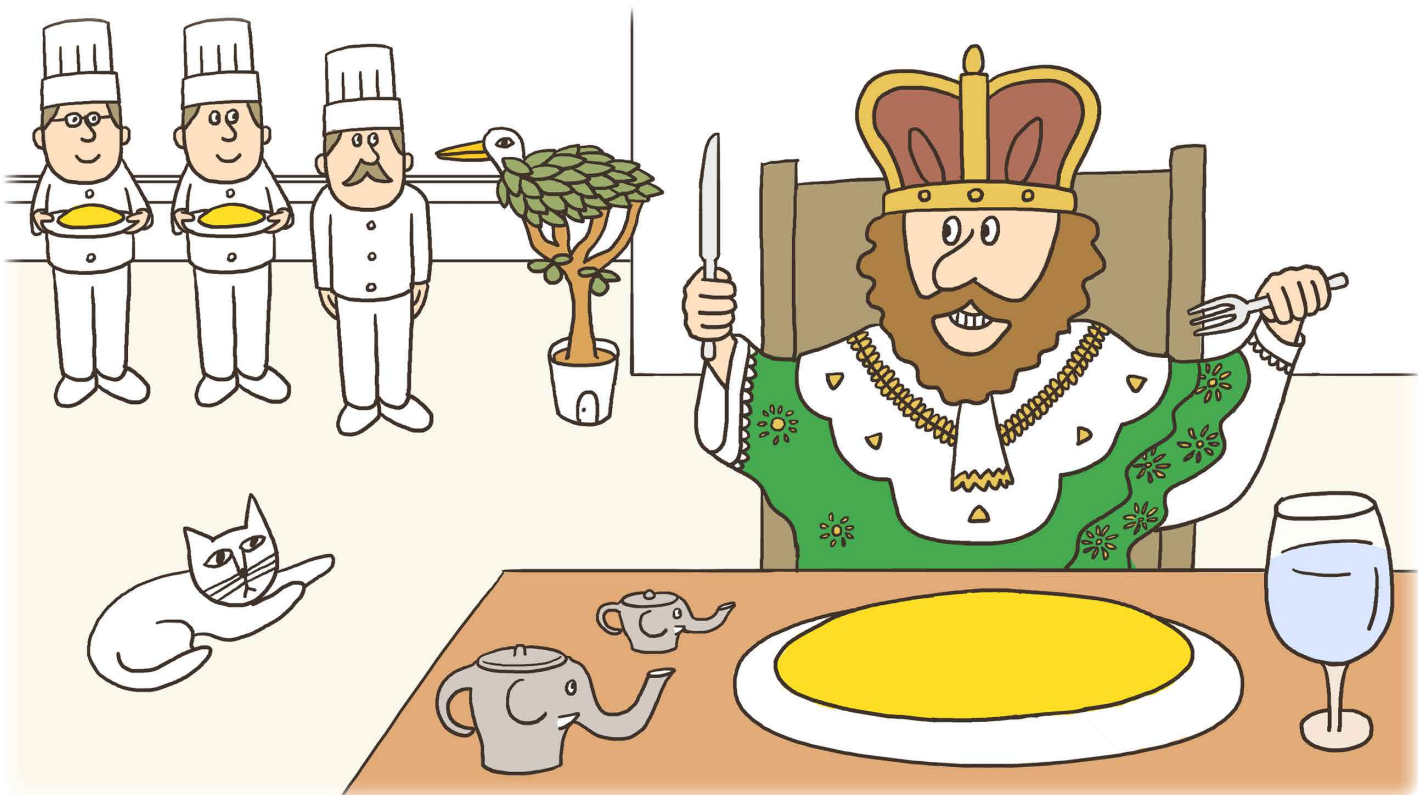
# 🥚 ゴウのたまごのたまごやき 🥚



★おはなしかん  
いっしょに

てらむら てるお  
作 寺村 輝夫

イラスト たきざわ とおる  
瀧澤 徹 (サンダースタジオ)



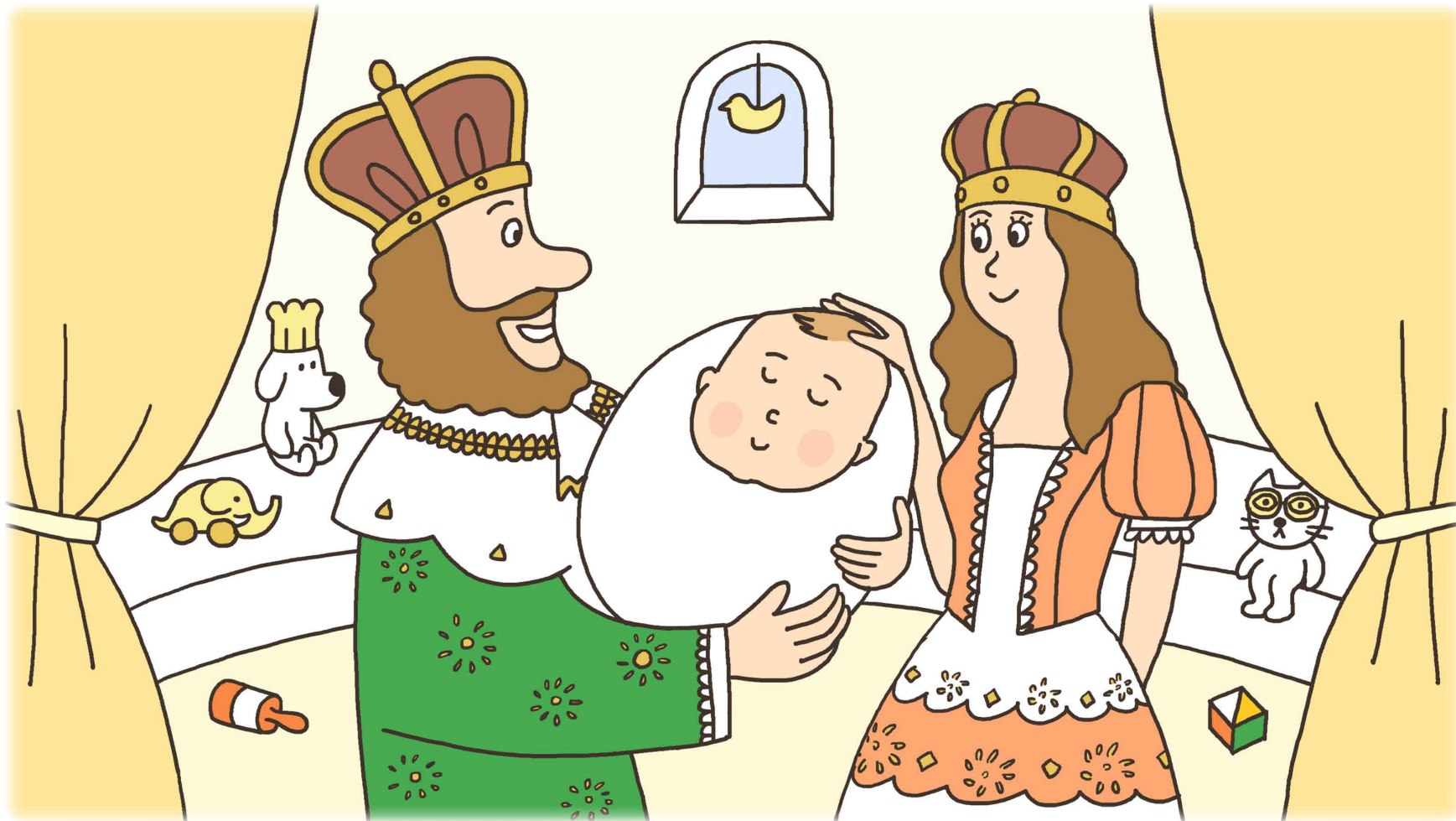
王さまに、——なにが、いちばんすきですか——  
ときいたら、

「たまご。」とこたえました。

「たまごやきが いちばんうまいよ。あまくって

ふうわりした、あったかいのが いいね。」

おう  
王さまは、あさも、ひるも、よるも、いつも  
たまごやきをたべていたんだそうです。

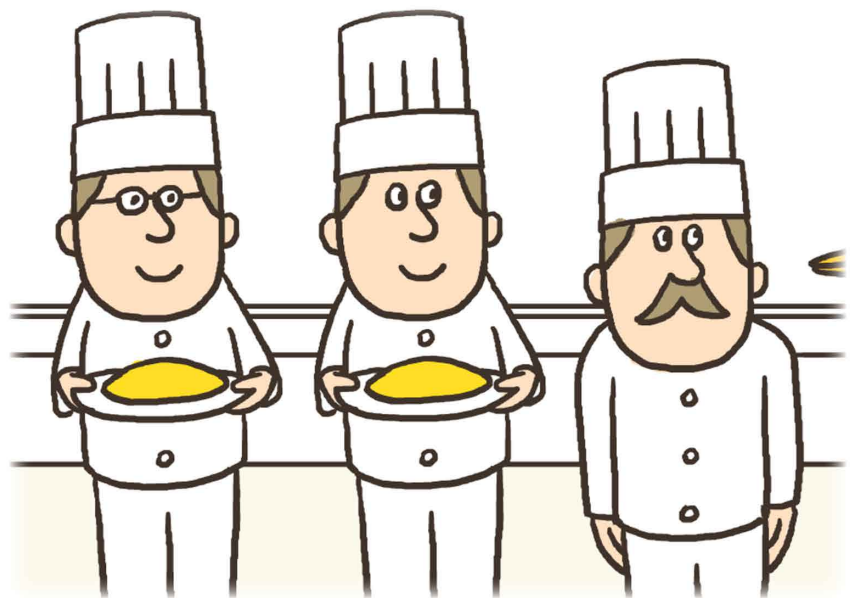


王さまのうちに、あかちゃんがうまれました。

まるまるとふとった

たまごのように かわいらしい

おうじ  
王子さまでした。



「あまくって ふうわりした、  
あったかいのが いいね。」

王さまは すっかりよろこんで、  
だいじんのワンさんをよんで いいました。

「おいわいをしよう。  
くにじゅうの人たちをおしろにあつめて、  
うんとごちそうをしてあげよう。」

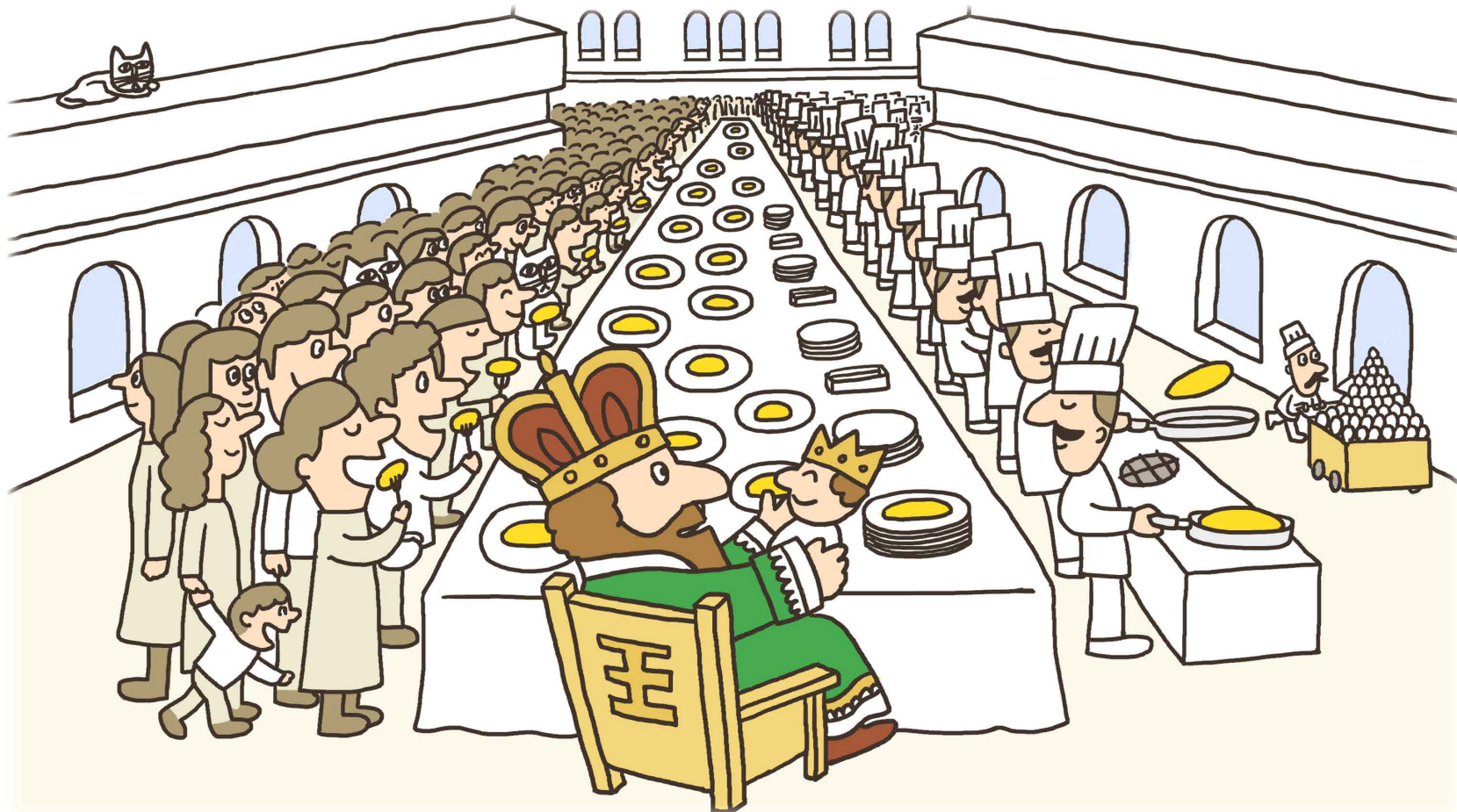
ワンだいじん「ごちそうは なににしましうか。

王さま。」

王さま「ごちそうは たまごやきに きまっているさ。

あつまつた人たち みんなに

たまごやきをごちそうするんだ。」



が、たいへんです。  
くにじゅうの<sup>ひと</sup>人があつまるんですから、  
たまごはいくつあってもたりません。

びやく ぜん  
なん百なん千も いるのです。

「王さま、ほかのぐちそうで

まにあわせましょう。」

王さまは、これをきいて、おこつてしまいました。

「いや、いかん。ぜったいに たまごやきだ。」

たまごやきでなかったら、おいわいは やめだ。」

王さまつて、わがままで いばつてますね。

だいじんが こまっていると、こんなことを  
いうのです。



「ぞうのたまごを  
もってくれば いいではないか。」



「なるべくはやく  
おいわいだ。」

「ぞうのたまごなら、大きいおおからいいよ。

あまくってふうわりした あったかいのが  
みんなでたべられるよ。」

ワンだいじんは、ポンと手をうっていいました。

「ほう、なるほど、ぞうのたまごなら  
大きいおおでしょうね。」

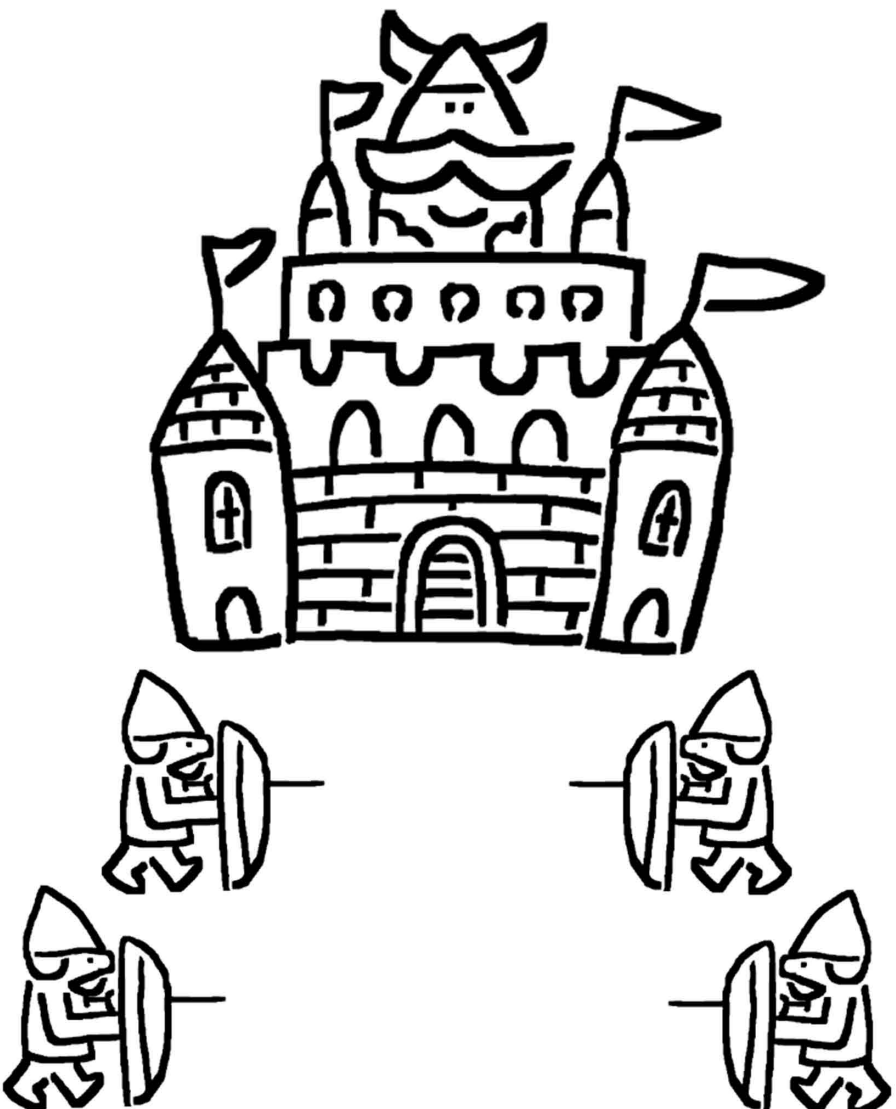
では、すぐけらいにいて、ぞうのたまごを

七ななつか八やっつ、みつけてこさせましょう。」

だいじんのいうことをきいて、王おうさまは

ふとったからだをゆすぶってにこにこしました。

だいじんのワンさんは、さっそく  
けらいをあつめていいました。



「王子さまが うまれた おいわいに  
くにじゅうの人たちを おしろにあつめて、  
みんなに たまごやきを  
ごちそうすることになった。」

そこで、ぞうのたまごを みつけてこい。  
七つか 八つ、さがしてこい。」

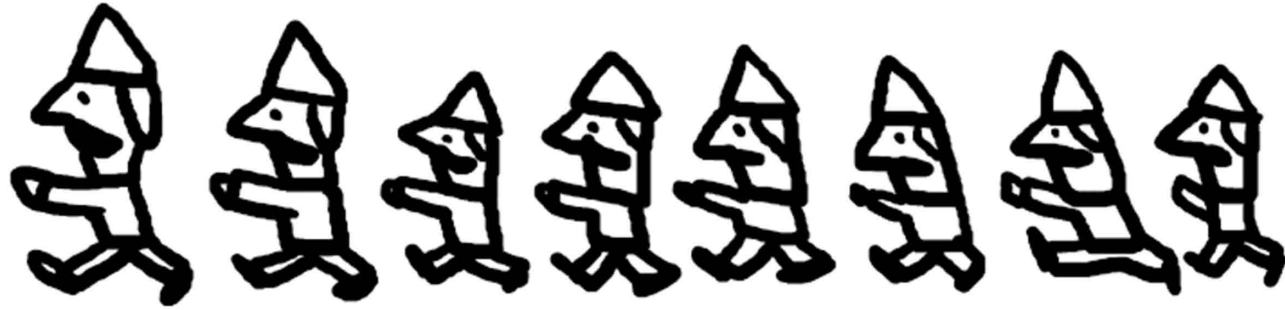


ブルルップトロロット  
タララッタター……ア

ラッパがなって  
しゅっぱつです。

へいたいたちは  
うたいながら  
すすみました。





ぞう。ぞう。ぞう。

たまごを うんだ ぞう。

たまごを だいてる ぞう。

はやく でてこい ぞう。



だいじんのワンさんは、  
おおぜいのへいたいをつれて、  
大きなもりへやってきました。  
ぼうえんきょうには、まだぞうがみえてきません。

木とくさのほかに、  
なにも、みえないのでした。



「みんな、いちどに、ピストルを そらにむけて  
うつんだ。いいか、一、二、三…。」

## ダダーン

すると——。

どうぶつたちが  
びっくりして  
にげだしました。

りす・しか  
だちょう・  
カンガル―・  
しまうま・  
らくだ・  
とら・  
ライオン・  
ひょう…。

へびや とかげも  
すばやく にげて  
いきます。

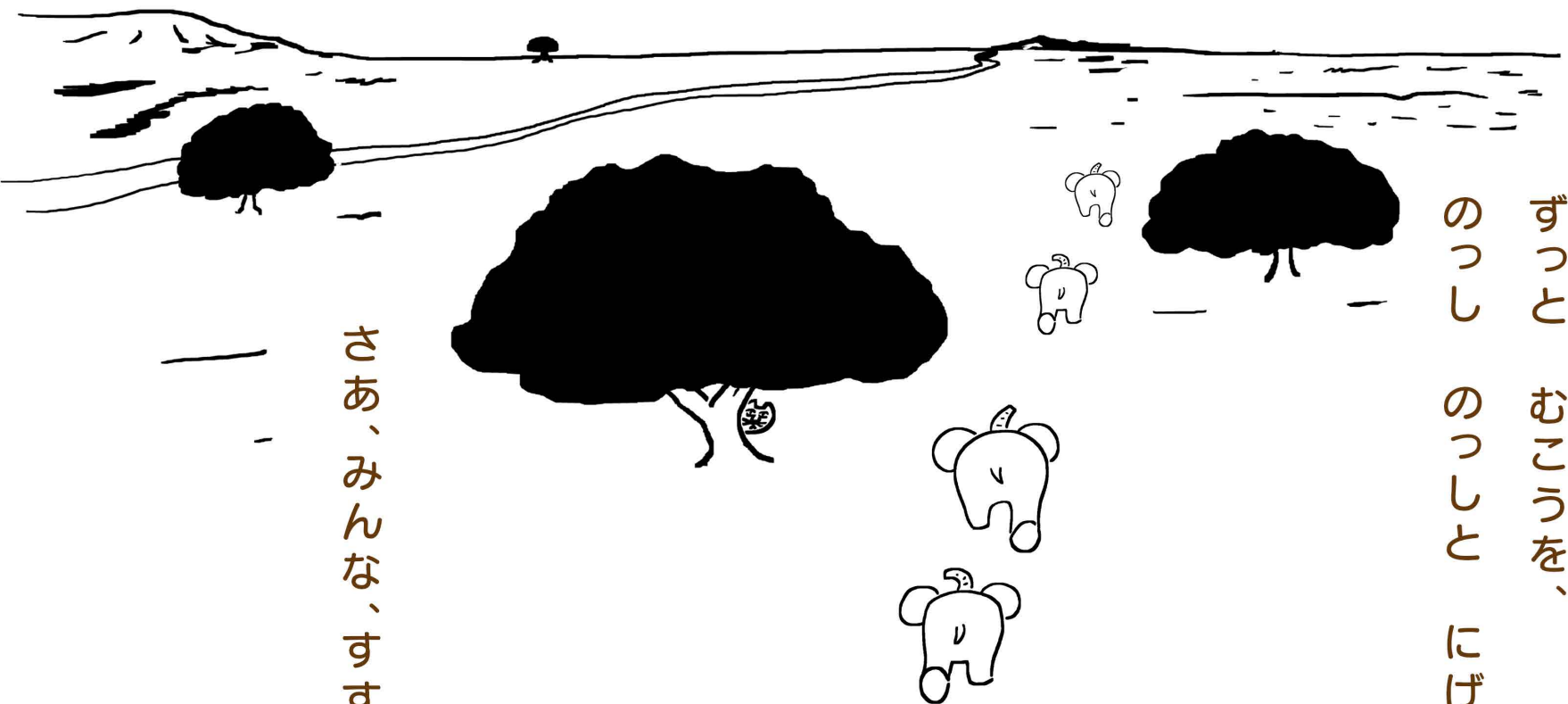


ぼうえんきょうをのぞいていたワンだいじんは、

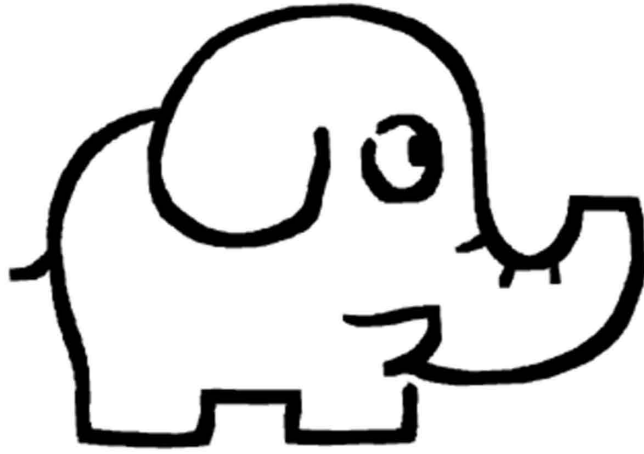
「あつ、いた、いたつ。そうが いたぞ。

ずっと むこうを、

のっし のっしと にげこらへ。



さあ、みんな、すすめつ、すすめつ。」



「おっ、<sup>こ</sup>子ぞうだ。」

ぞうの にげたあたりに くと、そこに  
にげおくれた <sup>こ</sup>子ぞうが ー<sup>す</sup>とろう。

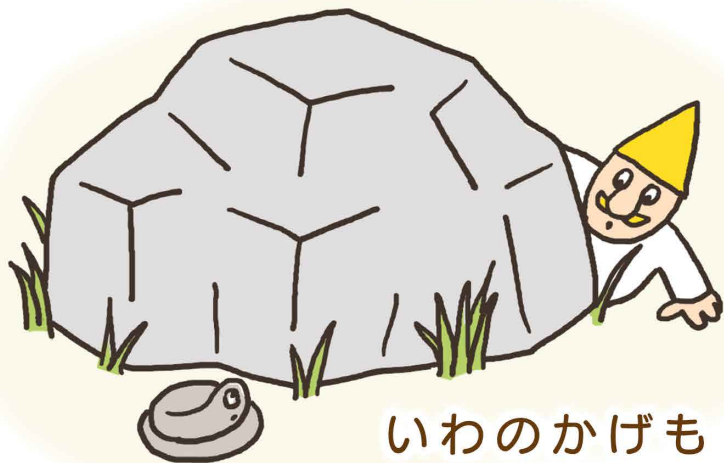
「たまごからかえったばかりらしい。  
まだかえっていないたまごもあるはずだ。  
さがせ、さがせっ。」

さがしました。

くさむらの中なかも



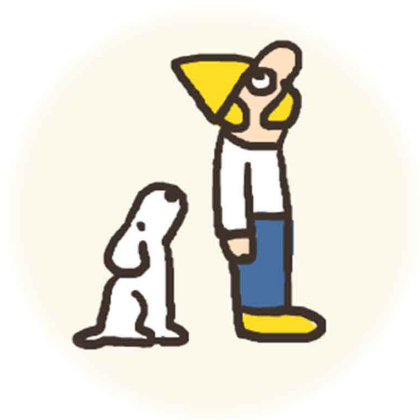
いわのかげも



ほらあなも、  
みんな  
さがしました。



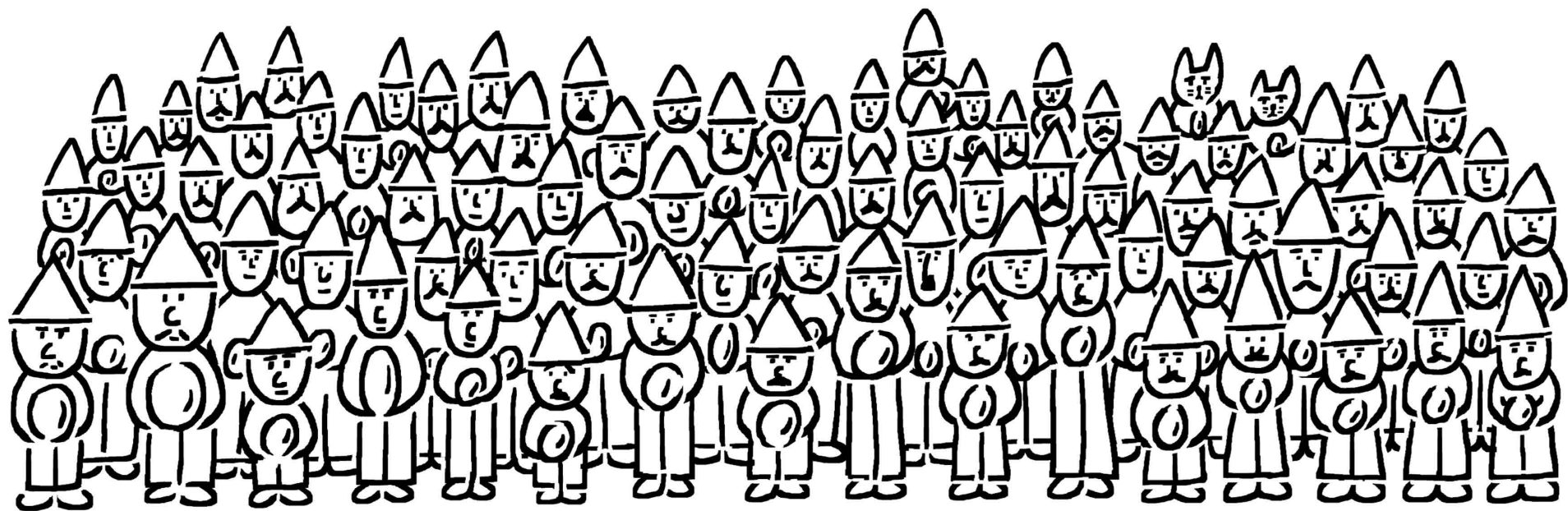
ところで、たまごは あったでしょうか。





ありました。  
ありました。

へいたいたちは、  
てて  
手に手に  
たくさん  
たまごをもって、  
かえつてきました。



が、みんな手に、もてるほど  
小さなたまごなんです。

どうもおかしい。

ぞうのたまごは、そんな小さなはずは ありません。

ワンだいじんは、おこってしまいました。

「そんな 小さいんじゃ、だめだっ！」

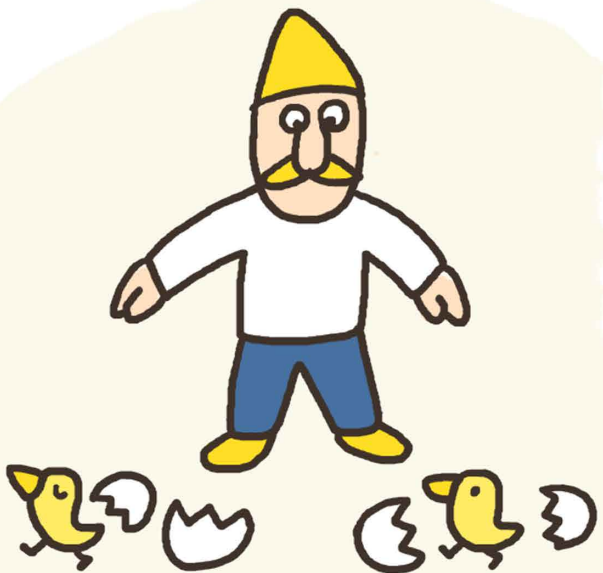
へいたいたちは びっくりして、手にもったたまごを、  
おとしてしまいました。



「あっ。」

おとしたたまごが ぱつとわれて、  
中なかから。ピヨピヨピーピー  
ひよこがでてきました。

じじいのひよこ。

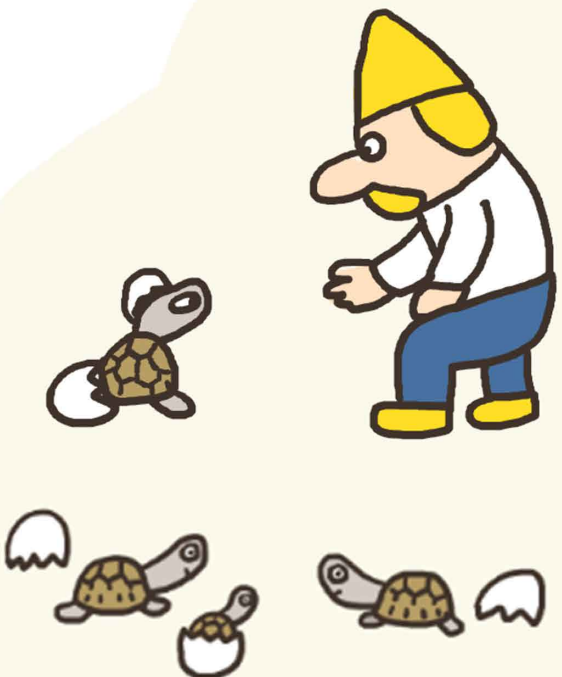


だちようのひな。



あれあれ、へびのあかちゃんや、

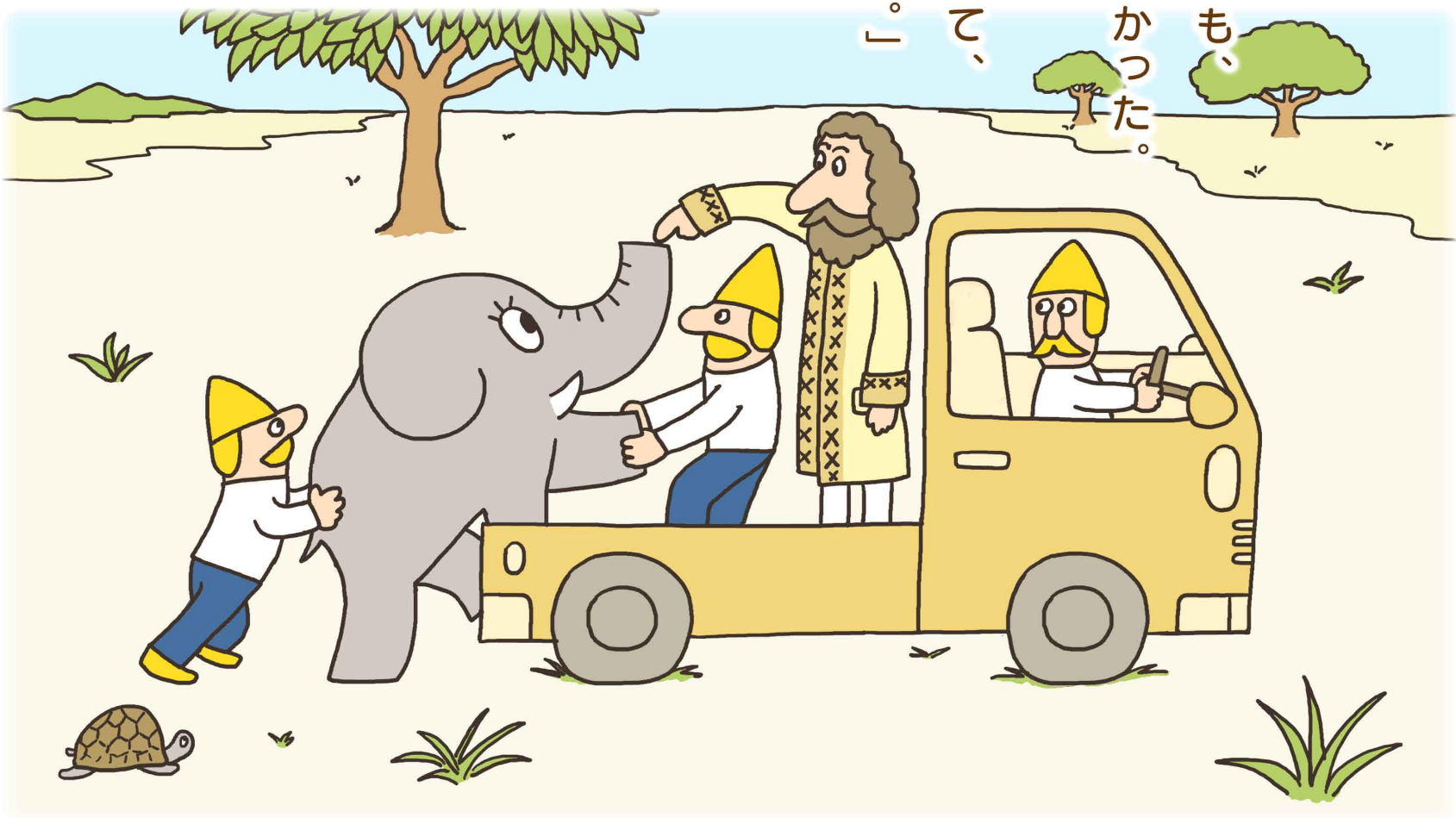
かめのあかちゃんもいます。



ひよこやあかちゃんが、  
ちよこちよこあるき出<sup>だ</sup>したのをみて、  
どこにいたのか、さっきの子<sup>こ</sup>ぞうがでてきました。

ワンだいじんは、  
いいました。

「これだけさがしても、  
ぞうのたまごは、なかつた。  
しかたない。  
この子<sup>こ</sup>ぞうをつれて、  
おしろへかえろう。」





ぞう。ぞう。ぞう。

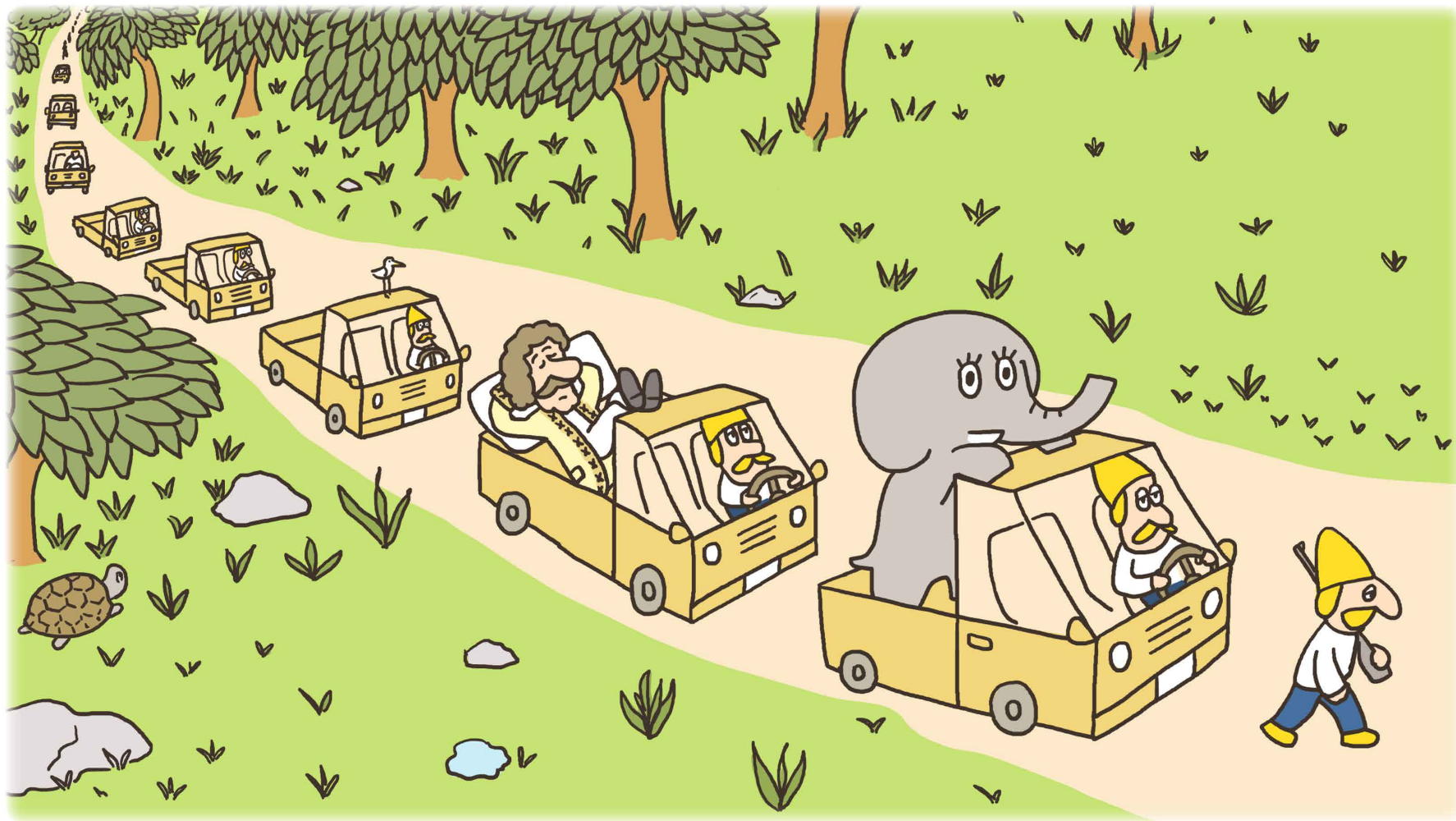
たまごを うんだ ぞう。

たまごを だいてる ぞう。

どこにも いない ぞう。

みつからなかった ぞう。

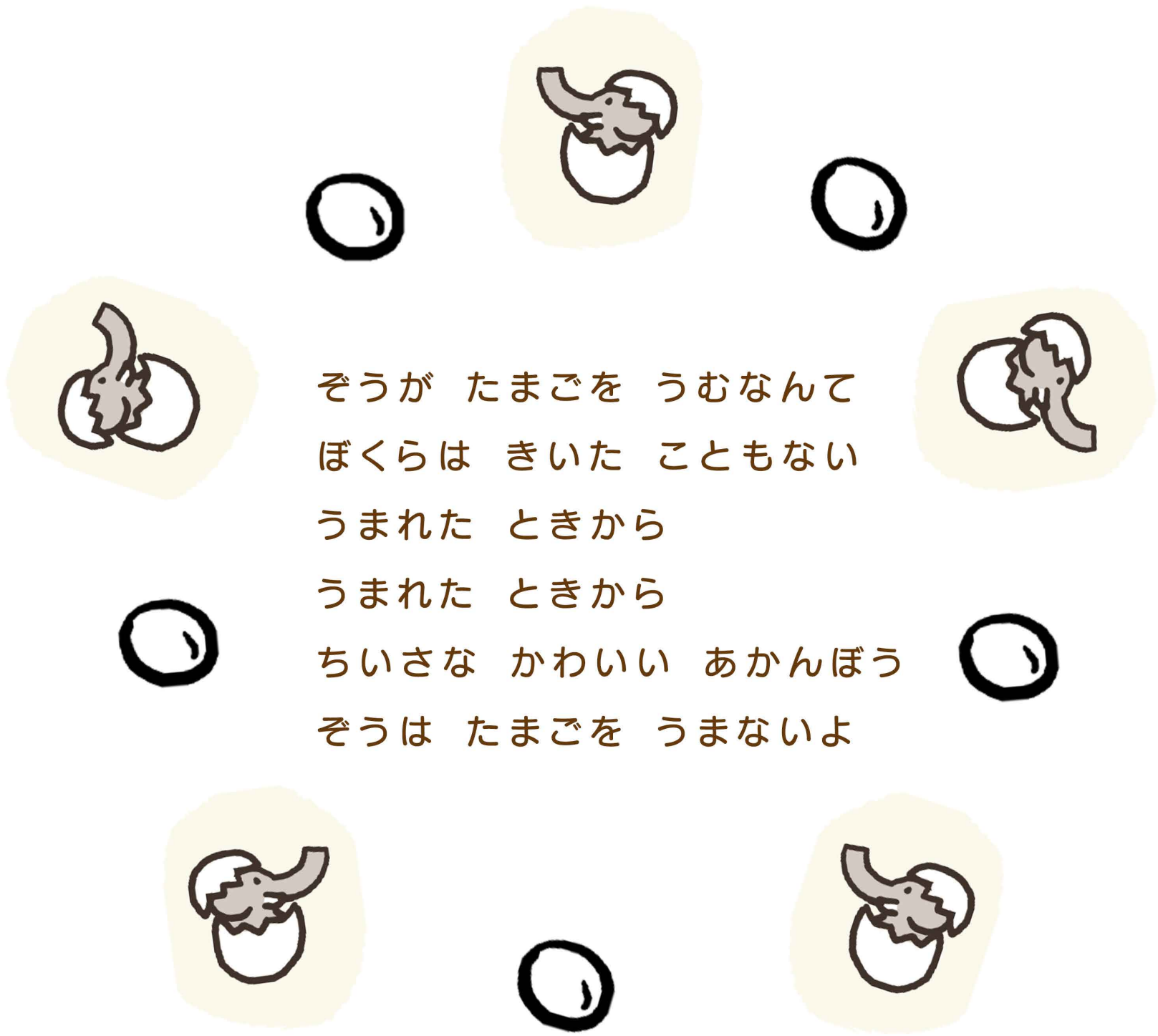




ワンだいじんも、とうとうトラックの上で  
ねむってしまいました。

はじめのうちは、へいたいたちも、そんなうたを、  
うたっていました。が、だんだん、つかれてきました。

ねむったワンさんは、ゆめをみました。  
ゆめのなかに、子ども<sup>こ</sup>がでてきました。  
子ども<sup>こ</sup>は、クスツとわらってから  
こんなうたを、うたうのでした。



ぞうが たまごを うむなんて  
ぼくらは きいた こともない  
うまれた ときから  
うまれた ときから  
ちいさな かわいい あかんぼう  
ぞうは たまごを うまないよ

ワンだいじんは、はっとして、目をさました。  
「あつそうか。そうは、たまごをうむどうぶつじや  
なかつたな。たまごをうむのは、小とりや、  
だちようや、へびだけか。」

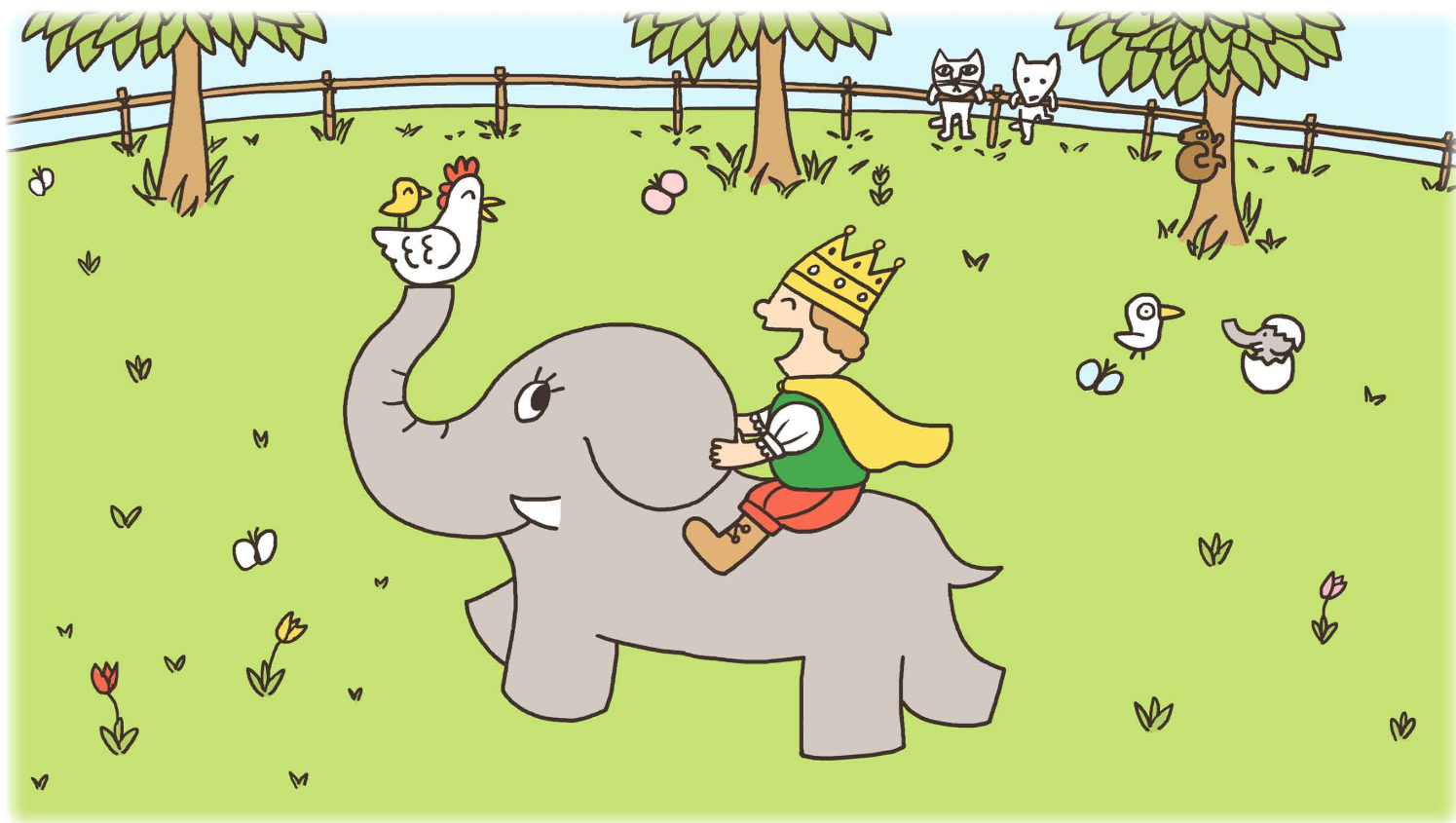
そうです。そうはたまごをうみません。  
みんな、どうして、はやく  
きがつかなかったのでしょうか。

王さまおうも、だいじんのワンさんも、  
おおぜいのへいたいたちも、  
みんな きがつかなかったのです。



あつはははは………。





うまのように、のってあるいたそうです。

でも、だいじんのワンさんが、  
つれてかえった子こぞうは、  
いつも、かわいらしい目めを、ぱちぱちさせていました。  
そして、王子おうじさまが大きくなったとき、  
すっかりなかよしになって、

おわり

